

# 觀測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文協會

## ★ 掩蔽課の報告 Occultations.

花山天文臺に於いて觀測されたもので、ブレテン314號及び327號の續きである。Occultations observed at Kwasan Observatory. This is continuation of those reports in Bulletin 314 and 327.

日附 Date	星 Star	光度 Mag.	潛入 Immersion	月齡 Moon's Age.	器械 Inst.
1937年 Oct. 十月 22日	53 Tau	5.4	<sup>h</sup> 21 <sup>m</sup> 32 <sup>s</sup> 25.0	18.0	Cook × 120
" " "	227B Tau	5.9	23 35 35.1	18.1	" × 300
" " 24日	" Gem	4.1	22 55 25.6	20.1	" × 240
" " 27日	29 Cnc	5.9	0 35 49.3	22.1	" × 120
1938年 Jan. 一月 7日	B.D. - 0° 4496	9.0	19 24 42.4	5.6	C × 240
" " "	B.D. - 0 4498	8.9	19 33 47.3	5.7	"
" " "	B.D. - 0 4499	9.0	19 38 52.9	5.7	C × 120
April 四月 4日	B.D. +19 646	9.1	20 00 02.3	3.7	"
" " "	B.D. +19 647	8.0	20 10 21.9	"	"
" " 5日	B.D. +20 863	8.0	19 23 01.3	4.7	"
" " "	B.D. +20 869	8.7	20 14 11.7	"	"
" " 6日	B.D. +20 1233	5.5	19 34 52.5	5.7	"
" " "	$\lambda^2$ Orionis	4.7	19 47 29.9	"	"
" " "	B.D. +20 1237	8.7	19 53 56.1	"	"
" " "	B.D. +20 1241	8.7	20 05 33.8	"	"
" " "	B.D. +20 1244	8.8	20 26 57.6	"	"
" " "	B.D. +20 1259	9.1	21 05 05.3	"	"
" " 9日	B.D. +15 1775	6.1	0 12 32.4	7.8	"
" " 12日	B.D. + 1 2495	6.3	1 09 16.3	10.9	C × 240

觀測者 Observer: 龜島武 T. Kamesima (應召中)

★ 太 陽 課

(昭和十二年に於ける太陽カルシウム  
羊毛斑の指示數報告) 觀測の方法や器械  
標準等はブレテン第217號及第256號を參  
照.

Character Figures of Calcium Flocculi  
of the Sun Observed during 1937, at  
Kwasan. See Bulletins 217 & 256.

1937年	一月 Jan.	二月 Feb.	三月 Mar.	四月 Apr.	May 五月	June 六月
1 日				4 (2 )		3 (2 )
2		4 (4 )	3.5 (3.5)	4 (2.5)		3 (0.5)
3	4.5 (4 )	4.5 (3.5)		3.5 (3 )	3 (1.5)	2.5 (2 )
4		4 (3 )			2.5 (2 )	3 (2.5)
5	4.5 (4 )		3 (1 )	4 (3.5)	2.5 (2.5)	
6				4 (2.5)	2 (2.5)	
7			3 (1.5)	4 (2 )		
8	4 (2.5)	3.5 (2 )			2 (1.5)	
9		4 (3 )	3.5 (2.5)	4 (3 )	2.5 (2 )	4 (4.5)
10	3.5 (3 )			3.5 (3 )	3 (2.5)	4.5 (4.5)
11	3.5 (2.5)			3 (3 )	3 (3 )	4.5 (4.5)
12	3.5 (2.5)			2.5 (1 )	3 (3.5)	
13	3.5 (2 )		3.5 (3 )	2 (0.5)	3 (2.5)	4.5 (4 )
14	3.5 (2.5)	3.5 (3.5)		2 (0 )		
15	3.5 (3 )	3.5 (3 )		2 (0.5)	4 (2.5)	4.5 (4.5)
16			3 (0.5)	2 (1 )		
17		3.5 (2 )	2.5 (1.5)	2 (1.5)	4.5 (3.5)	4.5 (5 )
18				2.5 (1.5)		4.5 (5 )
19			3 (1 )	2.5 (1.5)	4.5 (4 )	4.5 (4.5)
20		3.5 (2.5)		2.5 (2 )		4.5 (4 )
21		4 (3 )	3.5 (1.5)	3 (3 )		4.5 (4 )
22		4 (3 )	3.5 (1.5)		4.5 (4.5)	4.5 (4.5)
23	4? (3 )	4.5 (3.5)				4 (4 )
24	4.5 (4 )			3.5 (4 )		3.5 (3 )
25					4.5 (3.5)	3.5 (2.5)
26		4.5 (4.5)		3 (3.5)		
27				3.5 (3 )		
28				3.5 (2.5)	4 (4 )	
29				3 (3 )	3.5 (3 )	3 (3 )
30					3.5 (2 )	
31						
Mean 平均	3.9 (3.0)	3.9 (3.1)	3.2 (1.8)	3.1 (2.2)	3.3 (2.8)	3.9 (3.6)
Days 日數	11 (11)	13 (13)	10 (10)	24 (24)	18 (18)	19 (19)

注意：括弧内の數字は太陽面の中央部のもの、他は太陽全面。乾板の目測は普通三人にて行ふ。

Remarks : The numbers in the parentheses are of the sun's central zone, while the other series are of the whole solar disc.

1937年	七月 July	八月 Aug.	九月 Sept.	十月 Oct.	十一月 Nov.	十二月 Dec.
1 日	3 (2.5)	4 (3 )	4 (2.5)			4.5 (3 )
2	3 (2.5)	4.5 (3.5)	4 (3 )	5 (5 )		
3	3 (2.5)	4.5 (3.5)		5 (5 )		4 (3 )
4	2.5 (2 )		4.5 (4 )	5 (5 )	5 (4 )	4 (3 )
5			4.5 (4 )			4 (3 )
6		4.5 (3 )		5 (5 )		4 (3 )
7	2.5 (2.5)		4.5 (3.5)	5 (5 )	4 (3 )	4.5 (4 )
8	3 (2.5)		4.5 (3.5)			4 (4 )
9	3.5 (3 )	4.5 (3 )		4.5 (5 )		4 (3.5)
10	4 (3 )	4.5 (3 )			4.5 (3 )	
11		4.5 (3 )		4.5 (5 )		
12		4.5 (3 )	3.5 (3 )		4 (3.5)	4 (3.5)
13		4.5 (3 )	3 (2.5)		4 (5 )	4 (4 )
14	4.5 (4.5)	4 (3 )	3.5 (2 )	4.5 (4 )	4 (5 )	
15		4 (3 )		4.5 (4 )	4 (4 )	3.5 (5 )
16	4.5 (4 )	4 (3 )			4 (4 )	4 (5 )
17		4 (2.5)				4 (5 )
18	4.5 (4 )				4.5 (2.5)	
19	4.5 (4 )	3.5 (3 )				3.5 (3.5)
20	4 (4 )	3.5 (2.5)	3 (2.5)	4.5 (4 )	4.5 (3 )	4 (3.5)
21	4 (2.5)	3.5 (1.5)	3 (2.5)	4.5 (4 )		
22	3.5 (2.5)			4.5 (3 )	4.5 (3 )	4 (3 )
23	3.5 (2 )	3.5 (2 )		4.5 (3 )	4.5 (3 )	4 (3 )
24	3.5 (2 )	4 (3 )	4 (2 )	4 (3 )	4.5 (3 )	
25	4 (3.5)	4 (4 )	4 (3 )	4.5 (3 )	5 (5 )	4.5 (4 )
26		4 (4 )		5 (4 )	5 (5 )	4.5 (3.5)
27	4 (2 )	4 (3.5)		5 (4 )	5 (6 )	
28		4 (3 )	4 (3.5)	5 (4 )		4 (4 )
29		4 (2 )		5 (3.5)	5 (5 )	
30		4 (1 )			5 (4.5)	4 (4 )
31	4 (1 )					3.5 (3.5)
Mean 平均	3.7 (2.8)	4.1 (2.9)	3.9 (3.0)	4.7 (4.1)	4.5 (3.9)	4.0 (3.7)
Days 日數	20 (20)	24 (24)	14 (14)	19 (19)	18 (18)	22 (22)

太陽黑點相對數報告 Sun-spot Relative Nos. (1941年2月)

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章獻 (臺北市)	坂上務 (鹿兒島市)	津留繁雄 (熊本市)	廣瀨辨三 (廣島市)	本田實 (瀨戶觀測所)	竹內潤 (大阪市)	前橋榮太郎 (大阪市)	木邊成麿 (滋賀縣)	正村一忠 (岐阜市)	金田伊三吉 (石川縣)	大石辰次 (靜岡縣)	番掛七二 (長野縣)	堀田泰生 (橫濱市)	阿部正明 (東京市)	保積善太郎 (東京市)	富田弘一郎 (東京市)	中野繁 (東京市)	高杉重春 (東京市)	江川義 (千葉縣)	高橋利繁 (北海道)
口徑 mm	55	42	130	55	75	32	150	75	90	30	55	102	20	28	75	40	50	32	30	33
倍率 ×	64	64	48	50	60	50	54	60	22	53	64	75	50	45	44	32	50	40	20	35
方法	P	P	P	D	P	D	P	D	P	P D	D	P D		P	D	D	D	D	D	D
1	M	M		80	C		75	M	M	83	69	S	M	89	162	74		58	M	M
2	93	M		80	//		C	93	//	75	71	78	98	86	106	71		63	72	C
3	R	M		72	49		66	72	//	71	74	69	M	95	72	85		58	51	C
4	//	M		93	M		73	89	//	76	91	M	//	93	50	67		47	M	48
5	C	M		M	//		65	M	//	68	90	//	S	74	42	C		59	C	R
6	98	71		82	//		C	//	//	58	C	//	M	54	45	39		57	M	S
7	62	60		59	//		//	81	C	59	68	51	//	59	38	38		22?	48	C
8	58	72			22		23	58	59	57	62	C	//	57	39	38	23	45	M	C
9	C	R		C			M	49	34	S	49	M	35	56	13	47	24	22	//	C
10	R	63			24	14	11	62	48	//	C	S	S	61	30	12	34	11	//	C
11	43	R		38	C	14	11	49	38	35	49	50	M	35	25	C	35	11	//	11
12	M	C		R	//		C	S	S	34	38	M	28	34	21	55	36	22	38	S
13	R	C		M	//		//	//	26	33	C	//	C	M	20	50	35	11?	C	M
14	C	C		C	//		11	M	M	22	//	C	M	C	17	C	23	C	//	C
15	33	C		M	22	25	11	49	35	22	37	36	//	34	32	47	22	22	35	S
16	46	23		34	22	14	M	41	M	11	33	33	22	23	10	49	36	11	22	S
17	R	C		C	C		R	R	R	23	C	C	C	C	R	R	R	C	R	34
18	M	24	24	24	23		C	26	25	24	//	//	M	M	13	M	M	23	25	M
19	37	R		R	M		R	R	R	C	//	//	R	R	R	R	R	R	R	M
20	R	39		//	//	43	31	43	M	//	//	//	C	C	38	C	C	C	C	37
21	C	C		M	//	29	26	M	C	27	29	M	M	40	26	//	47	12	R	C
22	R	26		50	//	0	C	//	28	S	24	S	52	M	18	//	46	0	25	C
23	26	C		M	//		M	//	13	11	26	38	M	//	23	//	M	14	14	12
24	R	R		//	//		C	//	C	S	C	24	C	//	42	27	33	C	26	M
25	68	53	55	53	46	54	41	//	68	37	52	50	M	46	65	29	52	60	52	47
26	R	C		64	C	56	C	42	M	43	61	M	//	51	82	C	55	53	30	C
27	49	R		C			31	40	//	40	45	42	//	51	100	R	60	39	34	C
28	R	53		25			R	C	//	R	R	R	R	R	R	//	R	R	R	S
日數	11	10	2	12	8	9	13	14	10	21	18	10	5	18	25	15	15	22	13	6
平均	56	48		61	29	28		57	37	43	54	47		59	45	48	37	35	36	32

注意 N. B.: P=投影 Projection; D=直視 Direct visual observation; C=曇 Cloud; R=雨 Rain; S=雪 Snow; M=缺測 Missed.

## ★ 遊星面課報告 Planetography.

1939年度の火星大接近を送つて、その報告を終へて後、當課は課長の多忙に紛れ、恰然、開店休業の状態だつたが、其間、課員諸氏から、木星、金星等の報告を頂いてゐたので、ここに、久瀧を叙して、報告をする事とする。

## 〔1938年度〕

木星	—青木 章 (大阪)	7.5cm 反射經緯儀	140倍	7枚
金星	—坂上 務 (鹿児島)	11.5cm 反射赤道儀	166倍	2枚

## 〔1939年度〕

木星	—大口 周作 (大阪)	15cm 反, 經,	220倍	2枚
	小澤 喜一 (名古屋)	26cm 反, 赤,	230倍	1枚
	吉池 浩暢 (静岡縣)	5.8cm 屈折, 經,	133倍	1枚
	坂上 務 (鹿児島)	10cm 反, 經,	152倍	3枚
	竹内 潤 (大阪)	5.8cm 屈, 經,	35倍	4枚
		7.3cm 反, 經,	123倍	
		8.0cm 反, 經,	133倍	
	山根 平三 (東京)	10cm 反, 赤,	$\frac{100}{225}$ 倍	6枚
	津留 繁雄 (熊本)	13cm 反, 經,	170倍	6枚
	東京市立一中	10cm 屈, 赤,	120倍	12枚

## 〔1940年度〕

木星	—金山 明 (尼崎)	7.5cm 反, 經,	100倍	2枚
	富田弘一郎 (東京)	11.5cm 反, 經,	167倍	6枚
	中野 繁 (東京)	10cm 反, 經,	160倍	2枚
	蔡 章 猷 (臺北)	10cm 屈, 赤,	250倍	1枚
	東京市立一中	10cm 屈, 赤,	120倍	3枚
金星	—坂上 務 (鹿児島)	10cm 反, 經,	160倍	1枚

見取圖の數は以上の如くで、特に、山根、富田の兩氏からは、美しいそして價値多き見取圖を受領した。見取圖を必ずしも美しく畫く必要はないが、然し、(外國の例を引くのは恐縮だが)、Denning, Phillips, Antoniadi 等の美しい見取圖の作者は全て、此道の權威者である事實に徴しても、餘りラフな、良い加減な畫き方は極力排し、出來得る限り美しく精確に畫く様注意され度いものと思考する。これは木星の見取圖のみでなく、火星等に於ても、是非考へられたい事項である。

以上の合計59枚の見取圖以外に、東京の樋上敏一氏から、1939年度6、7月分の金星觀測概況の報告及、長野縣の降旗常雄氏から1939年10月16、17、18、19の4日間に涉る、木星面赤道帶地方に現はれた著しい白斑群の變化報告があつた。

以上の見取圖から、木星面の帯縞の状態を見ると、1938年度は6月7月頃は、北赤道縞が最も著しく、南赤道縞は餘り目立たなかつたが、9月頃には南赤道縞も相當著しくなつて來、1939年度に入ると、南赤道帯は急激に濃度と太さを加へ、且、赤道圏は、黒さを増し、この淡黒い、赤道圏中に、北赤道縞に接して、白斑の群が、數多く發生して、變化移動を行つた事が窺はれる。1940年度に入るに従つて、再び、南赤道縞は淡く細く變化し、年末には随分淡く褪色し、變つて南温帯縞が、稍々濃化し來つた事を知る事が出来る。

火星が今年は10月初旬に地球に最も接近する、生憎、中支、沖繩を通る皆既日食と時を同じくするので、觀測陣の弱화가心配される、が、内地に残られる留守隊は、是非火星の方にも、努力を分つて頂きたい。今年の火星は一昨年(1939年)度が大接近ではあつたが、非常な低空の爲良成績が得られなかつたのと異り、今年、高度も相當あり(10月初旬に於ける赤緯は $+4^{\circ}$ 前後で)中天高く仰ぐ位置にある。視直徑は、最大 $22.7''$ に達し、1939年度の最大視直徑 $23''$ 餘と比較して著しい差は認められないから、高度が高い丈け、觀測條件は良好となつてゐるから、1939年度に餘り香ばしい成績を得られなかつた當課は、今年こそ……の感を深くしてゐる。觀測についての詳細は、逐次天界誌上に發表するが、もう視直徑も $6'$ を超え、曉の東南の空に相當高く昇つて來てゐるから15纏以上の望遠鏡所有者は、ボツボツ觀測を開始せられて良い。今年度は特に、量より質を重んじ度く、使用器械も倍率に係はらず相當口径の方を重視し度い決心を持つてゐる。シーイングは是非嚴撰され度く、惡シーイング連続による見取圖數の低下は問題とせぬ様、努めて良好な視狀の許に、見取圖を得て頂き度い。ついでに今一つ苦言を呈するならば、1939年度に於ける使用倍率は一般に高きに過ぎた嫌ひがあり、今年の衝は、必ず無謀な高倍率を使用する事なき様注意され度い。(この問題については觀測指導記事として別記の豫定)。  
以上、過去の記録と、今年の火星觀測についての報告を爲して、開店開業に復し度い。  
(伊達英太郎)

## ★ 黄道光課 Zodiacal Lights.

東京の富田氏より去る二月16日夕と同22日夕の觀測報告を受理した。又、大陸の戦線上の田村軍醫中尉より昨年十一月中旬の曉天の觀測報告を受理した。之れは手紙の形になつてゐるので、通信欄に載せた。——日本の軍人は、生死の間に於いても天文觀察をやる。偉いものである!

筆者は去る二月15日の夕刻、紀州南部の海岸でパラスケヲプ1ロス彗星を觀測中、はからずも、前代未見の立派な黄道光を見た。形は多少傾いた三角形で、明るさは實に見ごとで、30年來、未だかつて見たことの無い明るいものであつ

た。其の御かげで、折角の大彗星の光芒がよほど妨げられた恨みがあつた。あの夜は、久しぶりに晴れたので、各地の會員は待望の彗星を見られたことと思ふが、同時に、あの黄道光を見た人々は、ありのままの印象を報告して下さい。

3年前、即ち1938年のストックホルム市に於ける國際天文同盟の總會で、黄道光用の星圖を撰定する委員を擧げることとなり、筆者が委員長として、委員を選び、圖を撰定することを托された。しかるに歸來、公私、事多く、其のうちに世界は戦争状態となり、國際交信が困難となつたので、どうしたものか?!と迷つてゐた。ところが、最近、ベルギーの F. de Roy 氏から手紙が参り、星圖撰定の件を催促して來た。これでは、一つ奮勵せねばなるまい。さし當り、日獨伊米英露等から適當な委員を擧げたいと思つてゐる。

紀州に避寒中、かの“地震虹”の椋平君と度々談合した。同君の主唱する“虹の現象は、われ々々黄道光課に於いて採り上げて研究すべきものだと思ふ。ついでには、佐野英生君など、既に可なりの經驗を有つてゐられるらしいが、近いうちに何か具體的な研究方針を定めたいと思つてゐる。(1941-3-10)

### ★ 流星課だより Meteors. (113) 課長 小椋孝二郎 K. Komaki, President

五月に活動する主な流星群 (May Swarms) は次の通りである。

1日~10日	$\alpha = 330^\circ \sim 340^\circ$	$\delta = -3^\circ \sim -2^\circ$	水瓶 $\eta$ Aqr	速痕
下旬	$\alpha = 240$	$\delta = +29$	北冠 CrB	速白

以上の外10日頃に ( $\alpha = 198^\circ$ ,  $\delta = -14^\circ$ ), 13日頃に ( $\alpha = 252^\circ$ ,  $\delta = +6^\circ$ ), 14日頃に ( $\alpha = 237^\circ$ ,  $\delta = +12^\circ$ ) を輻射點とする流星群がロシアの Sytinskaja 女史によつて注意されてゐる。

前回發表以後報告された recently reported 觀測は下の通りで、何れも四分儀群 Quadrantids のものである。

木村 直樹 (昨年十二月, 本年一月分)	(新觀測者)	和歌山市
石橋 正 (本年一月分)		東京市
西尾 利夫 (本年一月分)		大阪市

この外に山形縣左澤町の清野哲男氏から火球の報告を得た。

關東及中部に於て新に觀測網を組織し、同時觀測をする計畫が立てられてゐる。これに参加される約十名の觀測者の分布は、東京府、千葉縣、群馬縣、神奈川縣、山梨縣、長野縣、石川縣の一府六縣に及ぶものである。本年度は上半期に於ては、乙女座火球群、水瓶群  $\eta$  で下半期には水瓶  $\delta$  群、ペルセウス群、白鳥  $\kappa$  群、獅子群、双子群を主目的とさるゝ由である。同地方に於ける觀測希望者は千葉縣柏町の江川義氏と連絡せられたい。Net of simultaneous observations in Kwanto-district is planned. (1941. 3. 2)